

アーカイブ実践報告 フォトボイス・アーカイブの 意義と課題

NPO法人フォトボイス・プロジェクト

共同代表 吉浜美恵子（ミシガン大学社会福祉学大学院教授・臨床心理士。専門はコミュニティー福祉・参加型調査）
湯前知子（ジェンダー論・女性に対する暴力概論などの元非常勤講師）

本日の報告内容

1 はじめに

フォトボイスとは / フォトボイスの活動紹介

2 アーカイブ収録の位置づけ

概要 アーカイブの意味

3 課題

4 質疑・意見交換

フォトボイス (PhotoVoice)とは

◇Photo(写真)とVoice(声)が一体となったもの

◇写真だけでは表現しきれないもの・こと
文字だけでは伝えきれないもの・ことを
二つの情報媒体を一体化して表現し、発信する。

◇写真を介して、小グループで語り合いを重ねる。

○ミシガン大学のCaroline Wang教授によって
はじめられた手法。

発言力の弱い立場の人々の人権保障の向上、社会改革
促進のための手法として広く海外で用いられている。

震災の影響

福島 の日常

福島のシンボル信夫山（しのぶやま）
噴水で遊ぶ子どもたち
隣には汚染土壌を覆う巨大な緑のシート。
汚染土壌から出るガスが、幾つもの煙突から
放出されている。
それも日常。

福島県福島市信夫山（しのぶやま）公園
アケミ
2018年6月撮影



フォトボイスの例示

防災・復興の課題

安全と美観を兼ねた防潮堤

住民の反対を押し切って、
海水浴場の防潮堤が完成した。
横長の窓から海も見え、工夫する
大事さを知った。

岩手県宮古市藤の川 2019年6月 撮影

良子



NPO法人フォトボイス・プロジェクトの活動

(参照：資料リーフレット)

- ◇東日本大震災で被災した女性たちの発信をサポートするために、フォトボイスの手法を応用した。
- ◇現共同代表の吉浜美恵子の提唱により、湯前知子と共に東日本大震災発災（2011年3月11日）後の5月から準備、6月より被災地にて開始。
- ◇被災地の女性グループと協働。
- ◇被災した女性たちが自ら撮影した写真を持ち寄り、小グループで語り合う活動を現在も継続中。
- ◇現在、7グループ・40人余のメンバー

フォトボイス・グループの進め方

- ◇ファシリテーター（進行役）がさまざまな配慮をして、できるだけ安全な安心できる場にする。
- ◇写真を通しての語り合いで、感情の表出、認識、共感、自己覚知、自己肯定などを受け止め、促すなど、グループの力を用いてファシリテーションを行う。

写真の批評はしない
ココで聞いたことは外では言わない
ほかの人の発言に対して批判や非難しない



フォトボイス仙台のグループの様子

声づくり

小グループの語り合いの中で、声づくりも行う。
写真と共に社会に発信したい、メッセージを創る。他のメンバーも声づくりに際して意見を言ったり、それを参考にしたりなど、それ自体がグループワークとなる。

(したがっていわゆる写真のキャプションではない)

展示会やワークショップ・報告会で発信

- 写真と声をパネル化し展示会をこれまで約60回実施してきた。
- 撮影者自身が（被災者）被災経験を伝え、防災・復興の問題提起者となるなどワークショップや報告会を開催してきた。
- ヌエックの夏の男女共同参画推進フォーラムでも毎年開催。参加された方々からは好評をいただいている。

写真と声集の刊行

これまで2冊刊行している。



2019年11月盛岡展示 地元メディアの取材

2019年8月ヌエックでの展示の様子



声の英語への翻訳作業

- ・ ミシガン大学日本語科の学生ボランティアが下訳し教員が指導している。
- ・ 2017年8月にはその翻訳チームが来日し、東北の被災地各地と東京のグループを訪問し、撮影メンバと共に翻訳作業を行った。
- ・ 翻訳学生ボランティアの1名が博士論文の一環で、フォトボイス・プロジェクトの英文のホームページを作成した（フォトボイスのホームページの英訳）。

フォトボイスの効用

1. 社会的課題と災害対応・防災への提起

写真と声を発信し、風化防止と災害対応・防災への提案復興の課題も指摘している。

2. グリーフ・ケア

写真を撮り、写真を介してグループで被災経験や心情を語り合い、相互理解や相互援助が深まり、それによって社会心理的ケアとなる。

除染後の桜並木道



ガードレールの左が帰還困難区域(許可を申請して一時帰宅しかできない)。右が居住制限区域(日中だけ時間制限で出入り可能)なのは変わらない。右側だけ解除され2017年4月に戻って生活できることになった。ガードレール1本だけで隔てられた場所に戻って生活できるのか？

キーちゃん

福島県富岡町夜ノ森 2016年11月 撮影

しぶとく、何度でも



2011年12月、自宅を解体した。心と体のバランスを崩すほど、自分にとっては大きなショックだった。出来るなら忘れなくて、道路すら避けていた。それでも……と、一年三ヵ月ぶりに訪れた跡地。そこには震災前に植えていた、ふきのとうが芽生えていた。今はまだ、現実を受け止めきれずにいるけれど、いつかこのふきのとうのように、しぶとく、強く生きたい。

Y.S

宮城県石巻市 2013年3月 撮影

フォトボイスにおける ヌエック災害復興女性支援アーカイブの位置づけ

概要

- 収録開始** 2015年3月から収録
- 収録数** 現在210セット
- 特徴** 声の英語訳も掲載（一部仏語訳あり）
- 収録時期** 随時
- 周知** 新たな収録ごとにFacebook、ホームページ、メールなどで周知を図っている。
- 実務担当** 協力者にアルバイトとして関わってもらっている。

写真と声をヌエックアーカイブに 収録するについての同意

写真と声をパネルにして国内外で展示したり、報告書にまとめる、ヌエック災害復興支援女性アーカイブに収録することなどについては、撮影メンバーたちの同意を得ている。

フォトボイスにおける ヌエックアーカイブの意義

発信、記録と保存、将来に活かす

フォトボイスの効用・意義

- 被災した女性たち自身が自らの視点で、その後の生活や心情、地域社会の課題などを撮影した多様な写真と、声加わることにより多面的に深く問題を提起している。
- 10年近く蓄積されつつある記録であり、被災地の変化と共に、女性たちの問題意識や心情の変化、あるいは変わらないものを表現し、記録している。
- 専門家や被災地外部者のアドボカシーではなく、被災した女性たち自身のアドボカシーである。

フォトボイスをヌエックアーカイブに掲載する意義

- 見落とされがちな人たち（専門性があるわけでない）の視点による写真と声が、公的機関のアーカイブにデジタル記録として保存されること自体が意義がある。
- いつでも誰でもアクセスできることの意義は大きい。
- 将来起こりうる災害への対応や防災・復興の在り方を示しており、活用される。

課題

- 1 広報の拡充
 - 2 将来的に日本語、英語の両ホームページに写真と声を掲載することを予定している。
 - 3 実務担当人材の安定的確保
 - 4 英語訳を掲載しているが、入口の検索画面が日本語なので、日本語を解さない人たちが入ることが出来ない。
→検索画面の英語訳を希望。
 - 5 アーカイブ収録の反響を活動に活かすため、団体ごとの検索数、検索数の推移（月ごと、四半期ごとなど）の充実が望ましい。
 - 6 アップロードシステムの簡素化、効率化を希望。
-